

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年8月7日

## テーマ「Evidence-based Management の推進」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)計画推進・評価部長  
小野 宏  
(計画推進・評価部)

## 1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略 (テーマ名)	統轄部署
8 学校経営	(2) Evidence-based Management の推進	計画推進・評価部

## 内容

経営・教学の両面において客観的データに基づくマネジメント (Evidence-based Management) を大きく進展させる。

非営利組織である学校のマネジメントにおける最大の課題の一つは、最上位のアウトカム (成果) を定め、その達成度を測る KGI や KPI を設定することにある。学院では KPI ダッシュボード等のツールを活用して「Kwansei Grand Challenge 2039」(超長期ビジョン・長期戦略) および中期総合経営計画 (実施計画・基盤計画) の進捗や達成度を含めた成果を検証する仕組みを構築する。各学校および大学の各学部も、全学の KPI と連動しながら個別の状況に合わせて独自に KPI を設定し、活用する。

その前提として、急速に進む ICT を活用し、本大学の教育・研究にかかるデータと財政・人事など経営資源にかかるデータを収集・蓄積して統合し、AI も活用して分析・可視化することによって政策の立案や評価を支援するなど、経営判断に資する総合的な IR 機能を確立する。

## 【フェーズⅡに向けた課題】

- ・ 教学 IR と経営 IR の統合の検討。
- ・ 各部門の企画機能強化、各学部のカリキュラム改革・戦略的マーケティング等へのデータ利用の方策の検討

## 【フェーズⅡの Total Review】

- ・ KGC2039 の成否を図る KPI 等を各指標の中から選抜するとともに、IR 室を総合企画部に設置することで、経営・教学の両面において客観的データに基づくマネジメント (EBM) を大きく進展させてきた。
- ・ KGC2039 版「KGI/KPI ダッシュボード」を定め、理事会等にて公開した。
- ・ IR 機能を総合企画部に移設し、経営と教学との IR を総合的に活用することが可能となった。
- ・ 内部質保証部会では、各学部にてアセスメントデータを配布し、2月の拡大版での課題とアクションプランの報告を行うべく、報告シートの変更を行った。

## 【フェーズⅢに向けた課題】

- ・ 「KGI・KPI ダッシュボード」の再定義と、分析データの政策への利活用が引き続き必要である。
- ・ 各学部、各学校との年2回の中期計画の進捗確認を経て、PDCA サイクルがどう機能するかを検証することが必要。
- ・ 各学部の DP を要素分解した学修成果の明確化とその検証を次期認証評価に向けてどう具体化するかも検討課題。
- ・ 人員体制強化により、持続性の担保に加え、経営 IR の拡充 (入試マーケティング、募金、研究等) が必要

## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年8月7日

## テーマ「Evidence-based Management の推進」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)計画推進・評価部長  
小野 宏  
(計画推進・評価部)

## 指標 1

指標	内容					
指標名	理事会での議論の回数					
定義・算式	理事会での KGI・KPI が議論になった回数/年					
現状値 (指標設定時)	1回 (2017年)					
目標値	フェーズ1終了時 (2021年度)		フェーズ2終了時 (2024年度)		フェーズ3終了時 (2027年度)	
	2回		2回		2回	
実績値	2019年度	1回	2022年度	1回	2025年度	
	2020年度	1回	2023年度	1回	2026年度	
	2021年度	1回	2024年度		2027年度	

## 指標 2

指標	内容					
指標名	IR室へのデータ利用申請件数 (年間)					
定義・算式	IR室へのデータ利用申請件数 (年間)					
現状値 (指標設定時)	-					
目標値	フェーズ1終了時 (2021年度)		フェーズ2終了時 (2024年度)		フェーズ3終了時 (2027年度)	
	今後設定		今後設定		今後設定	
実績値	2019年度	-	2022年度	12件9部署	2025年度	
	2020年度	-	2023年度	24件14部署	2026年度	
	2021年度	-	2024年度		2027年度	

# I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年8月7日

## テーマ「Evidence-based Management の推進」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	計画推進・評価部長 小野 宏 (計画推進・評価部)
-----------------------	---------------------------------

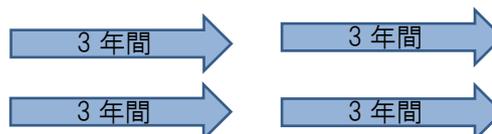
### 2. 実施計画ロードマップ

実施計画		担当部署	学部・研究科 での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
①	KGI・KPI の設定・活用	総合企画部	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)	3年間			3年間					
②	(SGU4-2)IR 機能の充実と推進	総合企画部 (IR室)	必要なし	3年間			3年間			3年間		
③			必要の有無を選択ください。									
④			必要の有無を選択ください。									
⑤			必要の有無を選択ください。									
⑥			必要の有無を選択ください。									
⑦			必要の有無を選択ください。									
⑧			必要の有無を選択ください。									
⑨			必要の有無を選択ください。									
⑩			必要の有無を選択ください。									
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ①KGI・KPI の設定・活用
- ②IR 推進のための環境整備
- ③経営・教学を包括した IR システムの構築・運用
- ④関連規程の整備
- ⑤【DX 関連】統合 DB の構築
- ⑥【DX 関連】経営 IR・EMIR の強化

※ロードマップ策定作業用記号



## I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2024年8月7日

## テーマ「Evidence-based Management の推進」

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)計画推進・評価部長  
小野 宏  
(計画推進・評価部)

## 3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

## ◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

## ◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

## ◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

## 4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	KGI・KPI ダッシュボード(KGC2039版)を理事会メンバーに説明・提供した。また、「二つのPDCAサイクルの統合」とあわせて、各学部・研究科における独自KPIを設定し、順調なスタートを切ることができた。
2020年度	「中期計画総括シート」を活用して、中期総合経営計画と連動しながら、学部・研究科の自己点検・評価を進めた。また、全学でのKGI・KPIの数値や取組状況を共有・評価を行い、トータルレビューにも活用して、関西学院全体の改革促進につなげることができた。
2021年度	教学データと財政・人事などの経営資源系データを収集・蓄積し、総合的に分析するIR機能の必要性は、中期総合経営計画第1フェーズのTotal Reviewでも指摘されていた。このことも踏まえ、学院総合企画会議の下に「IR推進本部」を設置し、総合的なIR推進を統轄するとともに、高等教育推進センター及び総合企画部に分散するIRの機能を、学院総合企画会議の事務局でもある総合企画部に集約し、2022年4月よりIR室を設置した。
2022年度	2022年4月より総合企画部にIR室を設置し、分散していたIR機能を統合させ、調査設計の見直し、調査項目の整備、DBの整備などを段階的に行った。また、調査をほぼWeb化させ、実施から回収、集計・分析・レポートまで概ね調査終了から2ヶ月以内で現場部署に迅速にフィードバックできるところまで持っていった。また、多面的な分析結果は学部長会などで定期的に報告しており、学部/研究科の中期計画推進における課題分析にも活用され始めてはいるが、具体的な改善結果がどのような成果と結びついているかをより明確にすることが今後の課題である。
2023年度	学部教育の可視化のために、各学部の教学データカタログを作成した。データカタログは、2024年3月の大学内部質保証部会(拡大版)における各学部の課題整理・改善施策検討資料作成のために活用された。学生調査の結果(教育満足度や学生生活満足度等)だけでなく、属性(性別や入試種別、入学年度等)別の出身地方、現役・浪人率、留年率、修得単位数(レベル別)やGPA、および進路状況等、入り口から出口までの学生の様子が網羅されており、自学部の学生像を把握することが可能となった。
2024年度	
2025年度	
2026年度	